

第11回

聞き書き甲子園



8月11日から14日までの4日間、全国から選ばれた100人の高校生たちが、自然と関わる長い経験を積んだ名人と一対一で触れあい、その知恵や人となり「聞き書き」して次世代へと伝えていく取組、「聞き書き甲子園」の研修会が東京都内で行われました。

第11回聞き書き甲子園参加者が揃って、研修所で記念撮影。



名人の知恵を次世代に
伝えるために

「聞き書き甲子園」は毎年1000人の高校生が、森や海・川に関わるさまざまな職種「森の名人・名人」「海・川の名人」を訪ねて、自然と人が共に暮らすための知恵や技、ものの考え方を学んで「聞き書き」として記録する取組。

平成14年から林野庁と文部科学省の主催する「森の聞き書き甲子園」として始まり、平成22年には「海・川の名人」への聞き書きが同時に開催され、平成23年からは森と海・川を合わせて「聞き書き甲子園」として実施されてきました。

「聞き書き」とは、話し手の言葉を録音し、一字一句すべてを書き起こした後で、ひとつの文章にまとめる手法。話し手の語り口そのままにまとめられた文章からは、名人の人格が浮かび上がります。

全国から集まった100人の高校生たちは、造林手や炭焼き職人、木地師、漁師、海女など、自然と関わるさまざまな職種の名人を訪ね、



過去に行われた聞き書きの様相(©奥田高文)



「聞き書き」卒業生たちが運営に参加

「聞き書き甲子園」では、過去に参加した卒業生たちが研修会の運営スタッフや参加高校生のサポート役として携わっています。

「聞き書き甲子園」では、過去に参加した卒業生たちが研修会の運営スタッフや参加高校生のサポート役として携わっています。

11回目となる今年の研修会の開会式では基調講演を、第1回に参加した代田七瀬ななせさんがつとめ、「聞き書き甲子園」の1年間を紹介するオリエンテーションでは第8回に参加した吉井萌恵よしいもえさんと、第9回に参加した中谷陽介なかつたひょうけいさんが進行役をつとめました。

また、東京都郊外の研修所に場所を移しての4日間の研修でも、約20名の卒業生たちが活躍しました。全国各地を旅して職人の聞き書きを行っている作家の塩野米松しののめまつさんとともに、卒業生たちも自らの経験を生かして高校生たちをサポート。実際に聞き書きを体験

する実習では、卒業生を中心に参加高校生がグループを組んで質問項目を考え、インタビューを行いました。卒業生からは「名人の口が重く、なかなか話をしてもらえない時は、まず一緒に作業をしてみよう」など、実践に基づいた貴重なアドバイスも行われていました。

また、インタビューの音声を書き起こし、レ



卒業生たちによる講義



卒業生が自らの経験を通してインタビューを指導



森の体験プログラム

●聞き書き甲子園ホームページ

<http://www.foxfire-japan.com/>

ポर्टにまとめる研修でも、卒業生たちが高校生たちの疑問に丁寧に答える姿が見られました。

秋からが本番 「聞き書き甲子園」

研修会で「聞き書き」について学んだ後、9月下旬からは高校生各自が一人で「森の名人・名人」「海・川の名人」を訪ね、交流をはかりながら、「聞き書き」の作業に入ります。取材内容は聞き書き作品としてまとめられ、来年3月に、再び東京で発表される予定です。

今年の参加高校生たちは、どんな発見や感動を伝えてくれるのでしょうか。

協賛企業・団体に感謝状を贈呈

8月11日、研修会に先だって行われた開会式では、過去10年間「聞き書き甲子園」の趣旨に賛同し、支援を行ってきた協賛企業・団体に対し、実行委員会を代表して林野庁から感謝状の贈呈が行われました。

今回感謝状が贈られたのは、次の企業・団体です。



株式会社ファミリーマート
富士フィルムホールディングス株式会社
トヨタ自動車株式会社
東京ガス株式会社
アサヒビール株式会社
京王電鉄株式会社
佐川急便株式会社
株式会社ティムコ
株式会社トンボ
パナソニック株式会社
環境文化創造研究所
公益財団法人損保ジャパン環境財団
財団法人一ツ橋文芸教育振興会